

雨降りの夜に

作詞 J'Soul (浅羽一)

この身体にまとわりつく様な空気 鼻の奥に残る水の匂い

今夜はきっと雨が降るだろう

透明なフィルター越しの様な風景 風が運ぶ遠い雲の声

今夜はきっと雨が降るだろう

濡れた窓から水玉模様の影が伸びてきて 一人の部屋を寂しく飾るなら

とりあえずテレビの音量を少しだけ下げて 僕を耳元で感じてみなよ

心を財布の中にでも紛れ込ませ 頭が溶けるほど真っ白な快感に

全てを忘れてただ一瞬を捧げたいのなら

正直に感情をさらけ出すと良いさ 口からこぼれた言葉の音の数

快感の喘ぎを君の喉に生んであげよう

この瞼を手で押さえる様な倦怠 足の先に触れる夜の名残

今夜もいっそ雨が降ればいい

視界の底から痺れる様な刺激 脳に舌を這わす甘い痛み

今夜もいっそ雨が降ればいい

部屋の隅では知らない国の歌声が渦巻き 自分を笑っていると思うなら

どうせなら世界が割れるほど大きな声で 僕の幻と歌ってみなよ

■繰り返し

雨音を伴奏に夜明けまでのライブ

たった一人の観客^{キミ}だけのために

■繰り返し